

すべての人に最高の余暇を



Contents

- | | | | |
|----|---------------------|----|--------------------|
| 1 | 会長メッセージ | 15 | コーポレートデータ |
| 3 | トップインタビュー | 16 | 株式情報 |
| 10 | 企業の社会的責任(CSR)への取り組み | 17 | IRコミュニティ |
| 11 | 決算ハイライト | 18 | 第三者によるフィールズの分析レポート |



すべての人に最高の余暇を
The Greatest Leisure for All People

代表取締役会長 (CEO)

山本 英俊

山本 英俊

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素より格別のご支援、ご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

はじめに、昨年3月11日に発生した東日本大震災から約1年3ヶ月が経過しましたが、改めて被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、心身とものご回復と地域のご復興をお祈り申し上げます。

当社及び当社グループは、被災地復興に協力すべく、新しい未来を切り開く子どもたちへの支援活動に積極的に取り組んできました。また、事業活動を通じて世の中の人々の思いに応えるべく、エンタテインメント性の高い商品やサービスの提供に努めてきました。このように、私たちは、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念の実現に向けた取り組みを重ねることで、自らの成長のみならず社会全体に豊かさをもたらしたいと考えています。

当社は、2003年3月の株式上場時に、企業の競争優位性の基盤として知的財産(IP)の多元展開を基幹とする戦略を打ち出しました。この戦略のもと、パチンコ・パチスロ分野では、キャラクターをはじめとするIPを活用し、エンタテインメント性の高い遊技機を世に送り出すことで市場の健全化や活性化に寄与してきました。また、クリエイティブに秀でた企業や表現者、最先端の技術を有する企業と連携し、取得したIPをパチンコ・パチスロ以外のメディアで展開することで、多様なエンタテインメント分野に事業領域を拡大していきました。

このような実績のもと、当社及び当社グループは、株主の皆様からのご期待や世の中の人々の思いに応えるべく、新たな成長に向けて歩みをはじめました。すでに数年前より、上場以来のパチンコ・パチスロ分野に主軸をおいたビジネスモデルから、IPに主軸をおいたビジネスモデルへの戦略転換を企図し、「成長するビジネスモデル」として戦略の整理、構築を進めており、さらなる成長と発展を期しています。

当社及び当社グループは、この先も安定的かつ継続的にキャラクターをはじめとしたIPビジネスを強化・発展させていきます。そして、新たに位置づけた事業の枠組みを基本に、それらの相互作用による循環型ビジネスの展開を通じて事業活動のスパイラルアップを目指し、中長期的にはパチンコ・パチスロ分野の流通企業からIPを基軸とした企業へと大きくシフトしていきます。同時に、株主の皆様への利益還元や、ウルトラマン基金をはじめとした社会貢献など、当社及び当社グループを取り巻くすべての人々の豊かさに資するべく、一丸となってまい進してまいります。

これまでも企業理念にご賛同賜り、お力添えをいただいております株主の皆様には深く感謝いたしますとともに、当社及び当社グループのさらなる成長と発展に向け、引き続きご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2012年6月



代表取締役社長(COO)

大屋 高志

大屋 高志

はじめに

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。本株主通信をお届けするにあたり、日頃のご支援とご愛顧に深く感謝申し上げます。

当社及び当社グループは、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念の実現に向け、世の中の人々の心を豊かにするエンタテインメント性の高い商品やサービスの提供に努めています。

2012年3月期は、東日本大震災の影響により、エンタテインメント産業も大きな変動にさらされました。当社及び当社グループの社員や家族も被災しましたが、社員と家族の安全をいち早く確保したうえで、グループが一丸となって被災地の復旧・復興支援活動に取り組みました。そして、多くの人々の心を癒し、明日への活力につながるエンタテインメントを提供することが私たちの使命と考え、パチンコ・パチスロ分野をはじめ、その他のエンタテインメント領域で様々な挑戦を続けた1年となりました。

業績の総括と次期の見通し

2012年3月期の総括

2012年3月期の連結業績は、売上高92,195百万円(前年同期比11.0%減)、営業利益8,527百万円(同35.1%減)、経常利益8,661百万円(同36.7%減)となりました。当期純利益は、子会社の解散・清算に伴い法人税等が減少し、5,991百万円(同20.3%減)となりました。

パチンコ・パチスロ分野は震災の影響でサプライチェーン(部品供給網)が寸断され、電子部品の調達に影響を受けたことから、遊技機メーカー各社が下半期偏重型の生産・販売計画を組み、当社も下半期を重視した販売スケジュールを策定しました。その後、想定より早い時期にサプライチェーンが復旧し、各社が有力タイトルの出荷・販売を年末年始に集中させることが予測されました。そのため、当社は流通企業の立場から、年明け後も市場の盛り上がりを持続させるべく、第4四半期に複数タイトルを投入する販売スケジュールを再策定しました。

この結果、上半期にパチンコ遊技機1機種、パチスロ遊技機2機種、下半期にパチンコ遊技機1機種、パチスロ遊技機4機種を投入しました。販売活動は全体を通じて概ね計画通

りに推移したものの、第4四半期に販売を開始した「パチスロ モンスターハンター」の受注分の一部が、タイで発生した洪水の影響により部品の調達が困難になったことから、次期にずれ込みました。また、パチンコ遊技機1機種について、業界団体による内規変更に対応し、ゲーム性・エンタテインメント性の向上を図るため、次期投入に変更しました。

パチンコ・パチスロ以外のエンタテインメント領域は、モバイル分野がスマートフォンへの対応や新コンテンツ拡充に向けた取り組みを継続し、スポーツ分野が抜本的な事業再編を実施しました。また、(株)ヒーローズはコミック誌「月刊ヒーローズ」を創刊し、ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)は映画「ベルセルク 黄金時代篇 I 覇王の卵」、(株)円谷プロダクションは映画「ウルトラマンサーガ」を公開しました。加えて、(株)デジタル・フロンティアは映画やゲームのコンピュータ・グラフィックス(CG)制作をはじめとした映像制作事業を推進するなど、各エンタテインメント分野で知的財産(IP)の取得、創出及び多元展開に向けた施策に注力してきました。

2013年3月期の見通し

2013年3月期の連結業績は、売上高115,000百万円(前年同期比24.7%増)、営業利益14,000百万円(同64.2%増)、経常利益14,500百万円(同67.4%増)、当期純利益7,300百万円(同21.8%増)を見込んでいます。

パチンコ・パチスロ分野は、流通企業としてファンからの支持拡大と新規顧客の創造を目指し、ゲーム性・エンタテインメント性に優れた良質な商品を投入していきます。

パチンコ遊技機は、京楽産業.(株)との新ブランド「オッキー」の第1弾商品の投入をはじめ、提携メーカーとの企画開発商品のラインナップの拡充を図っていきます。パチスロ遊技機は、拡大基調が続く市場をさらに活性化すべく、ファンのニーズに応える有力商品を複数投入していきます。これ

により、パチンコ・パチスロ遊技機合計48万台の販売を見込んでいます。

エンタテインメント領域では、当社グループが取得・保有・創出したIPを新たに位置づけた事業の枠組みで循環させることで、多くのファンを獲得し、IP価値の最大化を図っていきます。

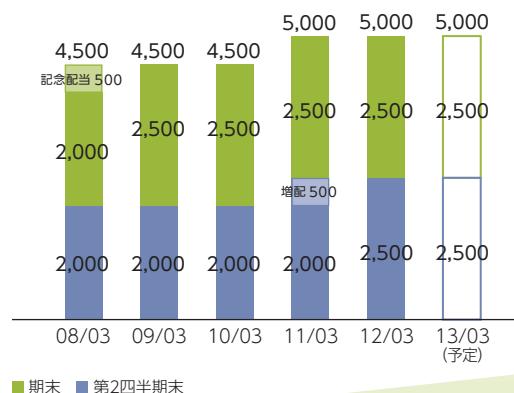
なお、株主の皆様への配当は、安定的かつ利益に応じた配当を基本方針としており、2012年3月期は1株当たり5,000円を実施し、2013年3月期は1株当たり5,000円を予定しています。当社はさらなる成長を通じて、株主の皆様への利益還元を目指していく所存です。

■ 連結業績の見通し

	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (見通し)	前年同期比 (%)
売上高	92,195	115,000	+24.7
営業利益	8,527	14,000	+64.2
経常利益	8,661	14,500	+67.4
当期純利益	5,991	7,300	+21.8

(単位: 百万円)

■ 1株当たり配当金 (単位: 円)



■ 期末 ■ 第2四半期末

当社グループが目指すキャラクターをはじめとしたIPビジネスのモデル

中長期的な成長に向けて

当社及び当社グループは、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念の実現に向け、世の中の人々の心を豊かにするエンタテインメント性の高い商品やサービスの提供に努めております。中長期的にはパチンコ・パチスロ分野の流通からIPを基軸とした企業へと大きな変化を遂げることで、さらなる成長が図れると考えています。

経済産業省は、国民生活を豊かにする次代の重要産業として「コンテンツ」を位置づけています。近年のメディアの多様化や個人の嗜好の広がりによって魅力的で新しいキャラクターが生まれにくい状況を打破し、日本の経済成長に寄与することも、当社及び当社グループに課せられた使命であると考えています。そのためにも、付加価値の高いIPを取得・創出し、多元展開によって商業的に価値の高いコンテンツを育成する、IPを起点に幅広いエンタテインメント分野で世の中の人々の思いに応える、といったIPビジネスを安定かつ継続的に成長・発展させていきたいと考えています。

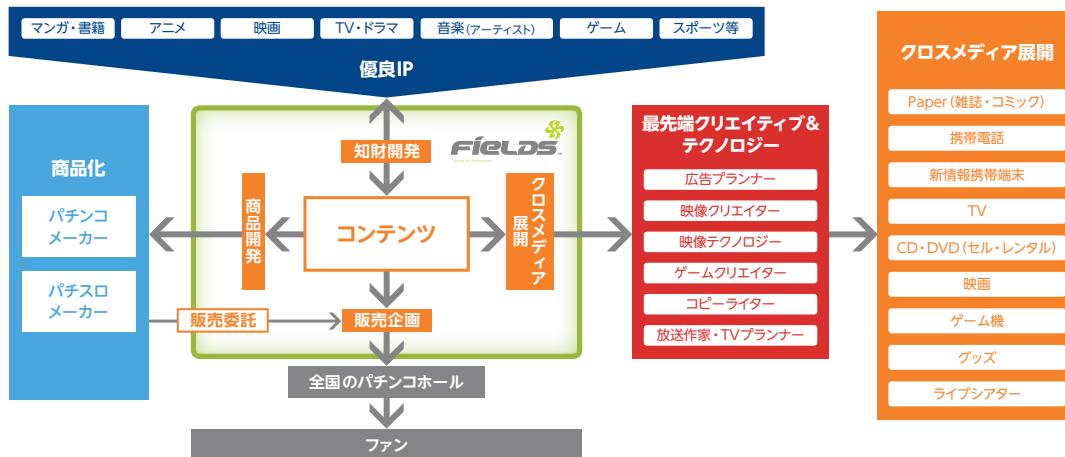
上場来のビジネスモデル

当社は、2003年3月に株式を上場しました。

上場以来、企業の競争優位性の基盤としてIPの多元展開を基幹とする戦略を打ち出し、一貫して推進してきました。とりわけIPの取得では、マンガ、アニメ、映画、テレビドラマ、音楽、ゲーム、スポーツなどの分野で優良IPを有する企業から、数多くの商品化権を取得してきました。

パチンコ・パチスロ分野では、こうした商品化権を活用してエンタテインメント性の高い遊技機を世に送り出すことで、市場の健全化と活性化に寄与することができました。当時は、IPを活用した遊技機も少なく、パチンコ・パチスロをアニメーション、映画、テレビなど同列のメディアととらえ、いち早くエンタテインメント性の高い遊技機を提供したことが成功の要因であったと考えています。

■ 上場来のビジネスモデル



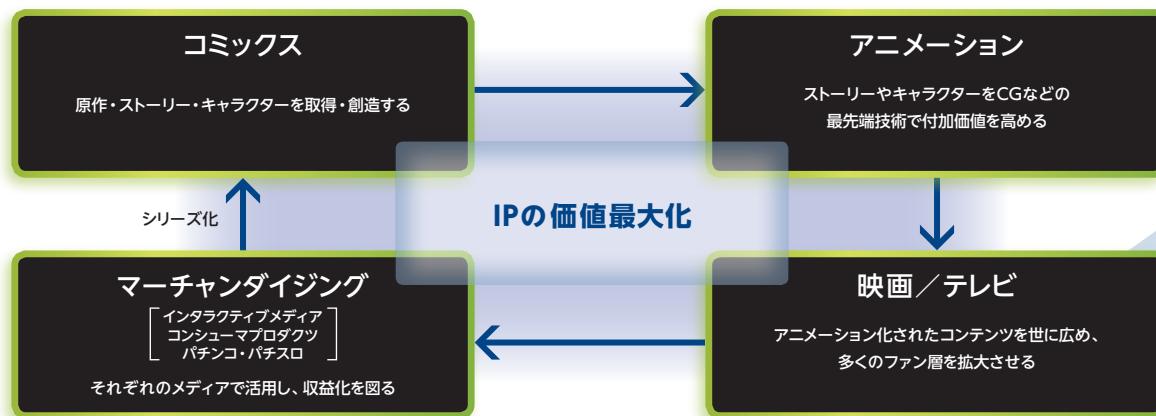
一方で、当社は、クリエイティブに秀でた企業や表現者、最先端技術を有する企業などと連携し、取得したIPをパチンコ・パチスロ以外のメディアで展開するという新たな挑戦を続けてきました。

こうした取り組みを通じて、多様なエンタテインメント分野に事業領域を拡大してきました。その間、IPの取得のみならず、(株)円谷プロダクションのような優良IPを保有する企業を傘下に収めてきました。また、保有するIPの高付加価値化に向けて、各分野の有力企業や秀でたパートナーとのネット

ワークを構築し、自らもコミックス、アニメーション、映像などの専門分野を担う企業をグループに迎え入れてきました。

その結果、パチンコ・パチスロ分野においては、魅力溢れる遊技機を継続的に開発・販売することが可能となり、大きな成果をあげることができました。さらに、次なる成長に向けて、お預りしているIPのみならず、優良IPの枯渇傾向を打破すべく、IPの創出を目的とした取り組みを本格的に始動しました。

■ 成長するビジネスモデル



成長するビジネスモデル

当社及び当社グループは、数年前から中長期的な成長・発展を遂げるために、上場以来のパチンコ・パチスロ分野に主軸をおいたビジネスモデルからIPに主軸をおいたビジネスモデルへの戦略転換を企図してきました。

今般、上場10年目、設立25周年を迎えるこの機に、次の四半世紀を見据えた「成長するビジネスモデル」として戦略を整理・構築し、さらなる成長・発展を期しています。

成長するビジネスモデルでは、4つの枠組みを基本として、それらの相互作用による循環型ビジネス展開を通じて、事業活動のスパイラルアップを目指していきます。

①「コミックス」：原作・ストーリー・キャラクターを取得・創造していきます。

②「アニメーション」：最先端の技術を活用してコミックスの有力作品の映像化を推進していきます。

③「映画／テレビ」：映画やテレビなどを通じて作品の認知度向上と価値拡大を図っていきます。

④「マーチャンダイジング」：インタラクティブメディア、コンシューマプロダクツ、パチンコ・パチスロの商品化を通じて収益化を担っていきます。

当社及び当社グループは、パチンコ・パチスロ流通の強みをもったキャラクタービジネスの確立を目指していきます。株主の皆様におかれましては、今後のさらなる成長にご期待いただき、引き続き長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

コミックス

IP創出の源泉として、原作・ストーリー・キャラクターを取得・創造するのが「コミックス」の役割です。

(株)小学館クリエイティブと共同で設立した(株)ヒーローズによるコミック誌「月刊ヒーローズ」の発行は、まさに今進行しているIP創出への取り組みです。「月刊ヒーローズ」からヒーローを基軸としたキャラクターを創出し、アニメーション、テレビシリーズ、映画化を行い、広く世の中の人々に届けます。そしてマーチャндаイジングによって収益化を図り、再度コミックスに還流する流れを目指しています。



©ヒーローズ

アニメーション

最先端の技術を活用してコミックスなどの有力作品を映像化し、IPを活性化させるのが「アニメーション」の役割です。

この取り組み例には、2012年2月に第1部が公開され、6月に第2部を公開する映画「ベルセルク」全3部作があります。「ベルセルク」は、原作コミックスが各国で発行されており、世界的に知名度の高いIPです。

当社は、原作・ストーリー・キャラクターを際立たせる企画プロデュースや最先端の技術で映像化しました。

今後は、世界16カ国以上での劇場配給やテレビなど多メディアを活用した商品化(マーチャндаイジング)を考えており、循環的な展開を通じてIPを活性化させていきます。



©三浦建太郎(スタジオ我画)・白泉社/BERSERK FILM PARTNERS

マーチャндаイジング (多メディアにおける商品化)

多様なメディアでのIPの商品化を通じて収益化を図るのが「マーチャндаイジング」の役割です。

ファンが拡大することで価値の高まったIPをゲーム・モバイル・SNSなどのインタラクティブメディア、コンシューマプロダクツ、パチンコ・パチスロへ展開することで、さらなるファンの拡大と確実な収益化を担います。

映画/テレビ

IPの普及と価値最大化のため、映画やテレビを通じて作品の認知度向上と価値拡大を図るのが「映画/テレビ」の役割です。

話題性や3D映像化など、IPの効果的な普及活動を展開して前作を上回る興行収入をあげたのが、2012年3月に公開した映画「ウルトラマンサーガ」です。「ウルトラマン」IPの価値を向上させ、ファン層の拡大に寄与した例といえます。



©2011「ウルトラマンサーガ」製作委員会

企業の社会的責任 (CSR) への取り組み

CSRに対する基本的な考え方

当社は、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念の実現に向け、社会や人々の豊かさに資するエンタテインメントを提供しています。そして、この事業活動を永続的に推進し、社会と共榮し続けることが当社CSRの基本的な考え方であり、その基盤となる経営の健全性や社会からの信頼・尊敬を得るために、CSR活動を重要な取り組みと位置づけています。

CSR委員会では、2008年の設立以降、CSRの基本的な考え方や企業行動規範を従業員に対して啓蒙しており、現在は全従業員がCSRに対する意識を高めつつあります。これにより、5つのワーキンググループが推進する社会貢献活動や従業員満足・顧客満足の向上、コンプライアンス研修、リスク管理などの施策は、着実に成果を表しはじめています。

フィールドグループは、企業として持続的な成長と、それに伴う社会的責任を果たすべく、今後も一歩ずつ前進してまいりますので、株主の皆様におかれましては長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

フィールドグループは、企業として持続的な成長と、それに伴う社会的責任を果たすべく、今後も一歩ずつ前進してまいりますので、株主の皆様におかれましては長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

▶ 当社CSR活動の詳細については、Webサイト(<http://www.fields.biz/ir>)をご覧ください。

社会貢献活動トピックス

清掃活動や節電施策を継続的に実施

当社は、社会貢献活動の一環として、本社のある渋谷区(東京都)で定期的に清掃活動を実施するとともに、鶴沼海岸(神奈川県)のクリーンアップキャンペーンにも積極的に参加しています。

また、今夏も全国的に電力不足が懸念されることから、空調や照明、PCなどを中心に使用電力の削減に努めるとともに、当社指定のオフィシャルシャツやスーパーボールズを導入するなど、引き続き、節電協力に向けた施策を全社一丸となって推進していきます。



渋谷区定例清掃活動の様子



鶴沼海岸クリーンアップキャンペーンでの清掃活動の様子

グループCSRトピックス

被災地の子どもたちを支援する「ウルトラマン基金」

(株)円谷プロダクション及び当社グループ賛同企業が丸丸となって設立した「ウルトラマン基金」は、2012年4月をもって設立1年を迎えました。

これまで、被災された皆様、とりわけ新しい未来を切り開く子どもたちへの支援活動に尽力し、ウルトラヒーローショーも含め、その活動は20回を数えることとなりました。

今後も、多くの皆様からのご協力のもと、子どもたちの未来に向けた施策を展開していきますので、ご支援賜りますようお願いいたします。



岩手県大槌町及び宮古市にマイクロバスを寄贈



宮城県女川町の保育所修了式にウルトラマンが登場

▶ 「ウルトラマン基金」の詳細については、Webサイト(<http://www.ultraman-kikin.jp/>)をご覧ください。

2012年3月期の経営成績

売上高は92,195百万円、営業利益8,527百万円、経常利益8,661百万円となりました。当期純利益については、子会社の解散・清算に伴い法人税等が減少し、5,991百万円となりました。

業績の主因として、パチンコ・パチスロ事業は、期初にあたって2011年3月に発生した東日本大震災の影響を考慮し、下半期重視の販売スケジュールを計画しました。その後、下半期に向けて各遊技機メーカーの有力タイトルの出荷・販売が集中する市場環境に対応し、需要と供給のバランスのとれた販売スケジュールを再策定しました。

こうした方針のもと、上半期はパチンコ遊技機1機種、パチスロ遊技機2機種を販売し、下半期にパチンコ遊技機1機種、パチスロ遊技機4機種を販売しました。販売活動は全体を通じて概ね計画通りに推移しましたが、第4四半期に販売したパチスロ遊技機の受注分の一部が次期にずれ込んだことなどにより、上述の経営成績となりました。

各セグメントの状況

PS・フィールド

当社は、先述の市場環境を踏まえ、下半期に大型タイトルを含む複数の遊技機を集中的に販売する体制を整えました。幸い、当初伝えられた夏以降よりも早い時期にサプライチェーン(部品供給網)が復旧したことから、第3四半期は遊技機メーカー各社から有力タイトルが相次いで投入され、年末年始商戦に向け、マーケットは大きな盛り上がりを見せました。

こうしたなか、当社は流通を担う立場から第3四半期の活況感を継続させるため、第4四半期に複数の大型タイトルを集中的に投入しました。なお、3月に投入した「パチスロ モンスターハンター」の受注は順調に推移しましたが、タイで発生した洪水の影響で一部部材の調達が困難であったため、販売台数の一部が次期にずれ込みました。また、第4四半期に販売を予定していたパチンコ遊技機1タイトルは、内規変更に対応するため次期投入に変更しました。この結果、パチンコ遊技機販売台数は233,223台、パチスロ遊技機販売台数は179,167台となりました。

<2012年3月期の主な販売タイトル>

■ パチンコ遊技機



©avex management inc.
©avex entertainment inc.
©Bisty

「CR ayumi hamasaki
浜崎あゆみ物語-序章-」
(2011年7月発売)



©カラー
©Bisty

「CRエヴァンゲリオン7」
(2012年1月発売)

■ パチスロ遊技機



©黒澤プロダクション/
Sammy・電通・びえろ・
NTV
©Sammy ©RODEO

「旋風の用心棒〜胡蝶の記憶〜」
(2011年8月発売)



©カラー
©Bisty

「エヴァンゲリオン〜生命の鼓動〜」(2012年2月発売)



©CAPCOM CO., LTD.
ALL RIGHTS
RESERVED.
©Sammy ©RODEO

「パチスロ モンスターハンター」
(2012年3月発売)

モバイル・フィールド

(株)フューチャースコープ及びアイピー・プロス(株)は、オンラインサービス分野において、パチンコ・パチスロ関連コンテンツを活用した既存サービスの見直しを進める一方、スマートフォン対応や新コンテンツの拡充を行うとともに、サービス品質の向上を図る投資を進めました。

スポーツエンタテインメント・フィールド

2012年3月期は、引き続きスポーツ関連事業の経営改善を実施し、ジャパン・スポーツ・マーケティング(株)は、2011年8月23日付「当社と子会社間での簡易吸収分割、及び子会社の特別清算に関するお知らせ」の通り抜本的な事業再編を実施し、2012年3月に特別清算が終了しました。なお、当社が承継したフィットネスクラブ事業の「トータル・ワークアウト」は、各店舗の会員数・パーソナルトレーニング本数とも堅調に推移しました。

その他・フィールド

(株)ヒーローズは、2011年11月にコミック誌「月刊ヒーローズ」を創刊し、2012年5月1日付の7号まで順調に発行しました。

ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)は、大型プロジェクトとして企画・プロデュースしてきた劇場アニメーション「バルセルク 黄金時代篇 I 覇王の卵」を2012年2月に全国公開しました。

(株)デジタル・フロンティアは、映画やゲームのコンピュータ・グラフィックス(CG)制作を含め、各分野で映像制作事業を推進しました。同社は、パチンコ・パチスロ遊技機向けCG制作や長編CG制作の依頼増加に応える制作ラインの拡充に向け、国内外で体制強化を推進しています。

(株)円谷プロダクションは、ウルトラマンシリーズ最新作となる映画「ウルトラマンサーガ」を2012年3月に全国公開し、話題性の高いキャストの採用や迫力あふれる3D映像化により、幅広い層にわたって観客動員をあげることができました。

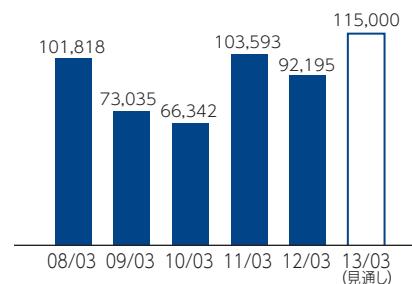
(各セグメントの売上高及び営業利益は12ページをご覧ください。)

連結損益計算書(セグメント情報含む)

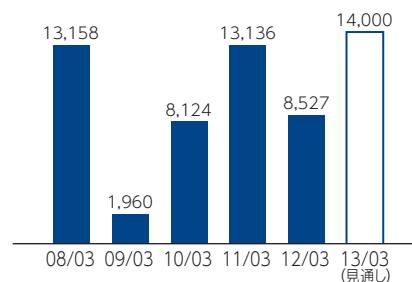
(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度	増減率(%)
	2010年4月1日から 2011年3月31日まで	2011年4月1日から 2012年3月31日まで	
売上高	103,593	92,195	△11.0
PS・フィールド	94,115	83,959	△10.8
モバイル・フィールド	2,032	1,924	△5.3
スポーツエンタテインメント・フィールド	2,171	1,945	△10.4
その他・フィールド	5,881	5,460	△7.2
調整額	△606	△1,093	—
売上原価	68,464	60,865	△11.1
売上総利益	35,129	31,330	△10.8
販売費及び一般管理費	21,993	22,803	+3.7
営業利益	13,136	8,527	△35.1
PS・フィールド	12,866	8,664	△32.7
モバイル・フィールド	236	11	△95.3
スポーツエンタテインメント・フィールド	△290	7	—
その他・フィールド	315	△139	—
調整額	8	△16	—
営業外収益	1,136	574	△49.5
営業外費用	588	440	△25.2
経常利益	13,684	8,661	△36.7
特別利益	215	8	△96.3
特別損失	488	404	△17.2
税金等調整前当期純利益	13,410	8,265	△38.4
法人税等	5,883	2,099	△64.3
少数株主損益調整前当期純利益	7,527	6,165	△18.1
少数株主利益	6	174	+2,800.0
当期純利益	7,520	5,991	△20.3

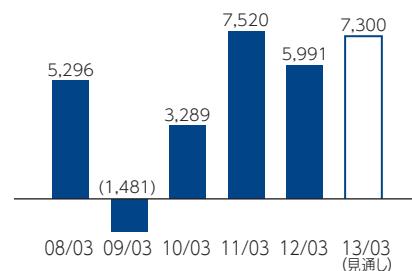
売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



当期純利益(損失) (単位:百万円)



(注) 増減率については、表上計算しています。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度末 2011年3月31日現在	当連結会計年度末 2012年3月31日現在	増減額
資産の部			
1 流動資産	51,051	62,811	+11,760
2 固定資産	27,920	30,790	+2,870
有形固定資産	10,089	10,980	+891
無形固定資産	5,070	4,372	△698
投資その他の資産	12,760	15,437	+2,677
資産合計	78,971	93,601	+14,630
負債の部			
3 流動負債	27,587	37,925	+10,338
固定負債	4,362	4,121	△241
負債合計	31,949	42,046	+10,097
純資産の部			
株主資本	47,601	51,895	+4,294
資本金	7,948	7,948	—
資本剰余金	7,994	7,994	—
利益剰余金	33,443	37,774	+4,331
自己株式	△1,785	△1,821	△36
その他の包括利益累計額	△821	△824	△3
少数株主持分	242	483	+241
4 純資産合計	47,021	51,555	+4,534
負債純資産合計	78,971	93,601	△14,630

1 流動資産の主な差異

流動資産は、前期末から11,760百万円増加して62,811百万円となりました。

これは主に、「現金及び預金」が、前期末から2,471百万円増加して18,344百万円となったほか、「受取手形及び売掛金」が、主としてパチスロ遊技機販売に係る売上債権の増加などにより前期末から6,454百万円増加して34,402百万円となったこと、「たな卸資産」が、仕掛品の増加などにより前期末から1,777百万円増加して3,135百万円となったことなどによるものです。

2 固定資産の主な差異

固定資産は、前期末から2,870百万円増加して30,790百万円となりました。

これは主に「投資その他の資産」が、関連会社株式の取得などにより前期末から2,677百万円増加して15,437百万円となったことなどによるものです。

3 流動負債の主な差異

流動負債は、前期末から10,338百万円増加して37,925百万円となりました。

これは主に、「支払手形及び買掛金」が、主としてパチスロ遊技機販売に係る仕入債務の増加により前期末から11,161百万円増加して29,100百万円となったことなどによるものです。

4 純資産の主な差異

純資産は、前期末から4,534百万円増加して51,555百万円となりました。

これは主に、「利益剰余金」が、当期純利益の増加により、前期末から4,331百万円増加して37,774百万円になったためです。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度	増減額
	2010年4月1日から 2011年3月31日まで	2011年4月1日から 2012年3月31日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,005	10,015	+2,010
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,356	△4,798	△442
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,915	△2,565	+1,350
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	0	+7
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△274	2,652	+2,926
現金及び現金同等物の期首残高	15,906	15,632	△274
現金及び現金同等物の期末残高	15,632	18,284	+2,652

フリー・キャッシュ・フロー (単位:百万円)



連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2011年4月1日から2012年3月31日まで)

(単位:百万円)

科 目	株主資本				株主資本 合計	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その 他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
2011年4月1日残高	7,948	7,994	33,443	△1,785	47,601	△822	0	△821	242	47,021
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△1,660	—	△1,660	—	—	—	—	△1,660
当期純利益	—	—	5,991	—	5,991	—	—	—	—	5,991
自己株式の取得	—	—	—	△36	△36	—	—	—	—	△36
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	△1	△0	△2	241	238
当期変動額合計	—	—	4,330	△36	4,294	△1	△0	△2	241	4,533
2012年3月31日残高	7,948	7,994	37,774	△1,821	51,895	△824	△0	△824	483	51,555

(注)増減額については、表上計算しています。

▶ 詳細は当社Webサイトをご覧ください。 <http://www.fields.biz/ir>

コーポレートデータ

会社概要

(2012年3月31日現在)

商号	フィールズ株式会社 (英文: FIELDS CORPORATION)
企業理念	「すべての人に最高の余暇を」
設立	1988年6月
本社所在地	〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー
資本金	7,948百万円
従業員数	1,324名(連結)

役員

(2012年6月20日現在)

代表取締役会長	山本 英俊
代表取締役社長(アニメーションプロデューズ本部長)	大屋 高志
専務取締役(インタラクティブメディア事業本部長 兼 コンシューマプロダクツ事業本部長)	繁松 徹也
専務取締役(PS事業統括本部長)	秋山 清晴
常務取締役(コンテンツ本部長)	栗原 正和
取締役(計画管理本部長)	山中 裕之
取締役(コーポレート本部長)	伊藤 英雄
取締役(PS事業統括本部副本部長)	藤井 晶
取締役(法務室長)	末永 徹
社外取締役	糸井 重里
社外監査役 常勤	池澤 憲一
社外監査役	小池 勲夫
社外監査役	古田 善香
社外監査役	中元 紘一郎

事業内容	1. 遊技機の企画開発 2. 遊技機の仕入、販売 3. キャラクター、コンテンツの企画開発、販売 4. 映像ソフトの企画開発、販売
連結対象会社	(株)フューチャースコープ トータル・ワークアウトプレミアムマネジメント(株) (株)円谷プロダクション (株)デジタル・フロンティア ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株) 他 11社

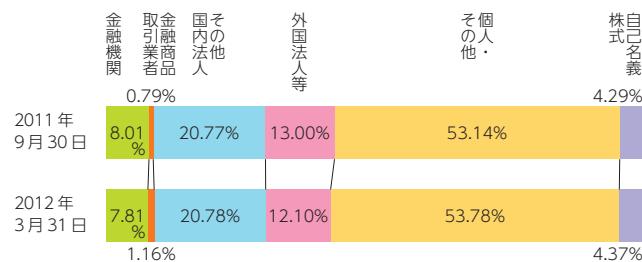
執行役員(計画管理本部副本部長)	小澤 謙一
執行役員(コーポレートコミュニケーション室長)	畑中 英昭
執行役員(PS事業統括本部副本部長)	藤島 輝男
執行役員(PS事業統括本部支店統括部長 兼 同本部北海道・東北支社長)	若園 秀夫
執行役員(イメージング&ライブエンタテインメント本部副本部長)	小澤 洋介
執行役員(研究開発室長)	大塩 忠正
執行役員(イメージング&ライブエンタテインメント本部長)	菊池 伸之
執行役員(イメージング&ライブエンタテインメント本部 エグゼクティブプロデューサー) (株)デジタル・フロンティア代表取締役社長)	植木 英則
執行役員(アニメーションプロデューズ本部副本部長) (ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)代表取締役社長)	鎌形 英一
執行役員(インタラクティブメディア事業本部 エグゼクティブプロデューサー) (株)フューチャースコープ代表取締役社長)	富永 政雄

(注) ()内は主たる役職となっています。

株式状況

発行可能株式総数	1,388,000株
発行済株式総数	347,000株
自己名義株式	15,162株
株主数	9,244名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
山本 英俊	86,750	25.00
(株)SANKYO	52,050	15.00
山本 剛史	36,128	10.41
(有)ミント	16,000	4.61
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	7,741	2.23
資産管理サービス信託銀行(株)(証券投資信託口)	7,677	2.21
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブ アカウト アメリカン クライアント	6,888	1.99
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	6,648	1.92
ビービーエイチルクス フィデリティ ファンズ ジャパン アドバンテージ	6,249	1.80
大屋 高志	4,500	1.30

*当社所有の自己名義株式は除いています。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	
定時株主総会・期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行(株)
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行(株) 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行(株)の本店及び全国各支店で行っております。
上場証券取引所	大阪証券取引所(JASDAQ) 証券コード:2767
公告方法	電子公告 URL http://www.fields.biz/ir (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

●住所変更のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行(株)にお申出ください。

●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行(株)にお申出ください。

●「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

個人投資家説明会を開催しました。

多くの皆様と直接対話をすることで当社への理解を深めていただきたいという思いから、毎年、全国各地で個人投資家向け説明会を開催しています。2012年3月期には福岡、徳島、熊本、広島、松山の5都市で開催し、累計で542名の方にご参加いただきました。いずれの都市でも積極にご意見・ご質問をいただくなど、活気ある説明会となりました。引き続き、このようにお顔を合わせて説明させていただく機会を積極的に設けていきたいと考えています。

参加者の方々からいただいたご質問にお答えします



配当についての考え方は？

配当性向20%以上を基準とし、利益に応じた適正な配当を行うことを基本的な方針としています。成長のための投資などとのバランスも考えながら、利益還元を行ってまいります。株主の皆様のご期待に報いるような成長を実現し、ともに喜びを分かち合えるようになりたいと考えています。



どの企業とよく比較されるのか？

株式市場では、当社のビジネスモデルと同様の企業がないため、同様の業界として遊技機メーカーと比較されるケースが多いです。なお、提携遊技機メーカーはライバル企業ではなく、ビジネスパートナーと認識しています。



熊本会場



広島会場



松山会場

IRサイトの拡充を図っています。

当社に関する様々な情報を広く開示することで皆様のお役に立てるよう、IRサイトの拡充に努めています。2012年3月期は、日興アイ・アール発表の「最優秀サイト」、大和インベスター・リレーションズ発表の「2011年インターネットIR・優良企業賞」、ゴメス・コンサルティング発表の「Gomez IRサイトランキング2012」新興市場ランキング第1位に選定されました。継続的な取り組みが評価されたものと考えていますが、これをもって十分とせず、評価やご意見を踏まえて今後も改善を図ってまいります。

IRサイト <http://www.fields.biz/ir>



第三者によるフィールズの分析レポート

日本生産性本部の2010年版「レジャー白書」によると、パチンコの貸玉料に相当する市場規模は19兆3,800億円で、余暇市場全体の29%を占める。また、パチンコ機およびパチスロ機(以下、遊技機)の年間市場規模は約1兆2,000億円と推定され、日本のものづくりを支える基幹産業である工作機械の受注額(2010年で約9,800億円)を上回る。

巨大産業であるパチンコ業界は、遊技機や周辺機器などを製造する企業、販売する企業、利用する企業(パチンコホール)の三層で形成されている。こうした中で、川上(遊技機の企画)と川下(遊技機の販売)の双方を手掛ける企業がフィールズ(以下、当社)である。生産設備を持たず、製品の開発と販売に特化しているという点で、家庭用ゲーム機およびソフトを手掛ける任天堂に近いビジネスモデルと言える。

当社の強みは以下の三点である。第一に、優れたコンテンツを自ら創出ないし発掘する能力である。グループには、映画やアニメーション、コミックを含む書籍など様々なコンテンツの開発を手掛ける複数の子会社が存在する。また、主力の遊技機事業を通して蓄積したグループ外企業とのネットワークや著作権獲得のノウハウは、競合他社の追従を許さない。

第二に、自ら創出ないし発掘したコンテンツを、長期間にわたって収益化する能力である。「エヴァンゲリオン」シリーズ初のパチンコ機は04年12月、パチスロ機は05年9月に発売されたが、緻密なマーケティングによって着実に「進化」を重ね、現在でもパチンコホールの主力機種となっている。

第三に、遊技機の高い販売力である。複数のメーカーの遊技機を取り扱っているため、全国を網羅する26支店の営業人員が高い頻度でパチンコホールを訪問し、収集した情報を遊技機の企画・開発部門へフィードバックする体制が構築されている。当社が02.3期から11.3期までの10年間で販売した遊技機は、累計で400万台を超える。また、当社の販売台数シェアは、02.3期の5%から11.3期には13%まで上昇した。

一方、当社のこれまでの営業利益の推移を見ると、年間120~130億円で頭打ちとなっている。さらなる成長を実現するためには、遊技機で「エヴァンゲリオン」シリーズに次ぐ第二、第三の柱を生み出すとともに、遊技機以外の事業分野を伸ばすことが不可欠であろう。また、当社は四半期業績の変動が大きいため、提携先の拡大による主力製品の発売時期の平準化や、固定費の変動費化が課題である。

なお、一般消費者における当社の知名度は必ずしも高くないが、機関投資家のみならず個人投資家向けのIR活動に精力的で、情報開示の質も高い。パチンコ産業は規制の変化による影響が大きい上に、成長イメージも乏しい。しかし、(1)積極的な株主還元で長期保有の投資家を増やし、(2)売り出し等によって株式の流動性を高め、(3)成長のボトルネックとなっている上述の課題を克服すれば、株式市場における評価も高まるであろう。



桜井 雄太(さくらい ゆうた)

野村證券株式会社 エクイティ・リサーチ部 情報通信チーム エグゼクティブ・ディレクター。社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員。
90年3月慶應義塾大学経済学部卒業、同4月野村證券入社。東京都出身。

NOMURA

野村グループは、「変化を作る」「ワールドクラス」「スピード」の3つを経営ビジョンのキーワードとし、「お客様中心主義」を徹底することにより世界中のお客様へワールドクラスの品質のサービスを提供することを目指しています。

<http://www.nomura.com/jp/>



www.fields.biz

すべての人に最高の余暇を

／ 企業理念への想い

VOICE

当社は、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を掲げ、我々が提供するエンタテインメントサービスを通じて多くの人々に「感動」と「興奮」を届けご満足いただけるよう力を注いでおります。さらなる飛躍を遂げるために成長するビジネスモデルへと発展させ、フィールズグループで働く一人ひとりが一生懸命に挑戦していきます。

これからの社会は、事業収益を最大限に高めることにプラスしてより多くの雇用機会を設けることや、地球環境を考え必要な時に必要な分だけ資源を有効活用したビジネスを支えられる健全な仕組みで営む企業こそが価値を高めていくと、私は考えます。

株主の皆様におかれましては、私たちの挑戦にご期待いただき、引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

文・表紙文字＝取締役（コーポレート本部長） 伊藤 英雄

IRお問い合わせ先

フィールズ株式会社
コーポレートコミュニケーション室 IR課
Tel: 03-5784-2109
Mail: ir@fields.biz

